

同志社女子大学芸術学部情報メディア学科(京田辺市興昌)の学生らが18日、同市河原のキララ商店街の空き店舗で「お化け屋敷」を行う。学生たちは「商店街やまの活性化の一助に」と、市内の高齢者にお化け役を依頼、世代を超えた交流の広がりを期待する。

## 同女大生18日、京田辺の商店街

地域について考え、企画する同学科の授業の一環。「お化け」は市シルバー人材センターを通して60〜70代の男女5人に依頼した。柳生静慶さん(78)「同市大生は「学生でないと思いつかない企画。自分なりに驚かせたい」とやる気十分。

同市を拠点とする舞台芸術創造団体「ワンタラリアアクトリー」の代表らが協力し、衣装を提供したり、リハサルでメイクをしたりした。見事に変身した平尾育子さん(68)「同市東吉森」は「好奇心があり、やってみたかった」と当日を心待ちにする。

学生たちは「こねくたず！」と名乗ってツイッターのアカウントを作り、告知動画で来訪を募っている。代表の3年玉井愛理さん(21)は「世代を超えて京田辺市民をつなぎ、市の活性化につなげたい」と話す。

# お化け 空き店舗 屋敷イベント は 高年齢者 主役の

お化け屋敷は、上ヶ墮を往復しながら、与えられたミッションをこなす趣向。商店街内の「スーパーサンフレッシュ」の通りを挟み西側で午後4時から同8時。500円。小学3年以上が入場できる。(大竹浩爾)



お化け屋敷のリハサルで、メイクをししてもらった高齢者を見守る同志社女子大の学生たち(京田辺市河原・キララ商店街)